

協会けんぽ福岡支部調査研究事業 (2か年計画)

「多剤投薬と不適切処方等に関する調査報告書」

服薬アドヒアランスの向上と医療費適正化を目指して

全国健康保険協会 福岡支部

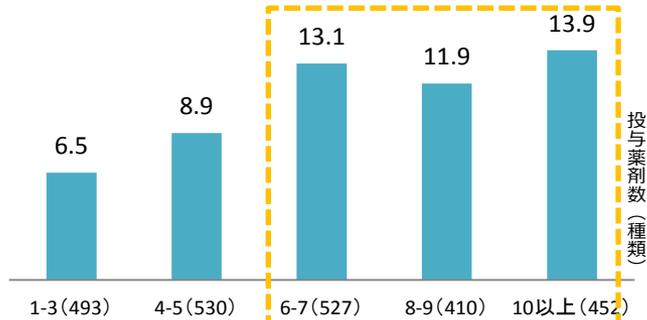
2019年7月



【社会的背景①】 国内外の文献より

- 薬剤数の増加により有害事象は有意に増加(Kojima T., GeriatrGerontol Int. 2012)
- 一日あたりの服薬回数が多いほど飲み忘れの増加 (残薬) (Osterberg L, N Engl J Med. 2005)

薬剤数増加と有害事象の関係



注：1995-2010年に東京大学病院の老年病科に入院した65歳以上の高齢者2,412人の有害事象を調査した結果
(出所) Kojima T., GeriatrGerontol Int. 2012

飲み忘れによる残薬増加



注：長期間投薬の増加、症状の変化などにより服用忘れなどが増えた結果、大量の残薬が発生したケース
(出所)日本薬剤師会

【社会的背景②】 国内の文献より

- 国の医療費約40兆円のうち、薬剤費は約8兆円を占める
- 多剤併用で明らかな問題は**薬剤費の増大** (高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015より)

65歳以上のうち5種類以上服薬している患者が1種類減薬した場合の推計値
(出所：H26年度調剤医療費の動向、中医協H27/7/22 診-1から算出)
(参考：65-74歳の32.5%が5-9種類、11.7%が10種類以上服用、75歳以上の41.4%が5-9種類、27.3%が10種類以上服用)

減薬による医療費適正化効果額 (推計)

5,730億円/年

ジェネリック医薬品切り替えによる医療費適正化効果
→4,087億円/年平均(出所：中医協H25/11/11 薬-1から転載)

研究概要（2か年）

【研究概要】

本研究は、医療保険者の立場から、加入者の服薬アドヒアランス※1の向上と医療費の適正化を目指し、加入者（患者）の服薬状況等に関するレセプト分析（医科・調剤）並びに医薬品適正使用促進のための事業スキームの構築を目指すものである。

協会けんぽ福岡支部加入者
(被保険者／被扶養者)

※1患者も薬を理解し、積極的に治療方針決定への参加をすること

【2017年度（1年目）】
服薬状況等に関する調査研究の実施

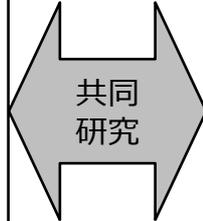
1. 服薬状況の実態把握（多剤投薬、相互作用・併用禁忌等の実態把握）
2. 上記1. の追加分析
3. 多剤投薬、相互作用・併用禁忌等にかかる薬物有害事象の分析
4. 多剤投薬者へのアンケート調査

共同研究者

- 1) 東京大学大学院 薬学研究科
- 2) 京都大学大学院 医学研究科

本研究事業にかかる専門的知識の教授及び助言等の実施

- レセプトデータの分析
- アンケート実施にかかる内容作成及び調査結果の分析等

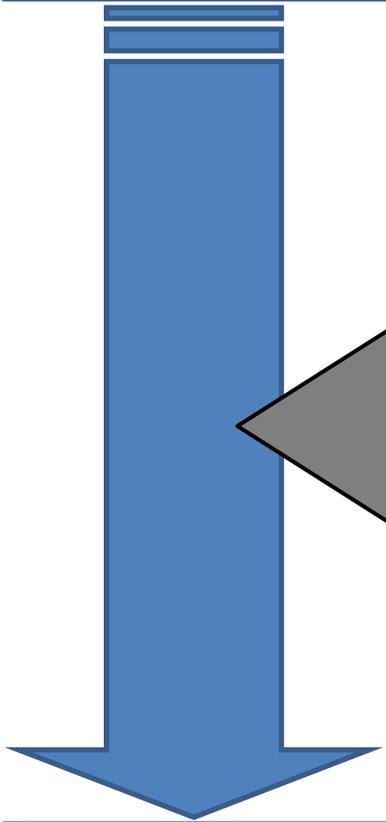
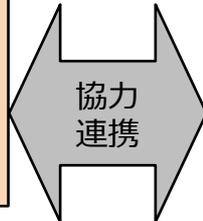


【2018年度（2年目）】
分析に基づいた事業の実施と評価

1. 薬物有害事象に関する追加分析
2. お薬手帳活用促進事業の実施と評価（福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会※2における新規事業との連携；重複投薬者へのお薬手帳ホルダー送付事業）

福岡県医師会、薬剤師会等

- お薬手帳の活用促進事業の情報共有
- 上記のほか、必要に応じて協力・連携



加入者（患者）の服薬アドヒアランスの向上

⇒ 服薬（多剤、禁忌など）による有害事象発生の回避
多受診、重複受診、残薬問題への対応など

※2018年度よりポリファーマシー対策を目的に発足（事務局；福岡県薬務課）学識経験者、福岡県医師会、福岡県薬剤師会、福岡県看護協会、全国健康保険協会福岡支部等9団体で構成。議長は東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 秋下雅弘教授

2017年度_報告内容（抜粋）

- 1 全対象者の多剤投薬・不適切処方の実態
- 2 年代別の多剤投薬・不適切処方の実態
- 3 有害事象等の影響分析
- 4 減薬による医療費適正化効果額の算出

レセプトデータの分析

本報告書における多剤投薬・不適切処方の定義

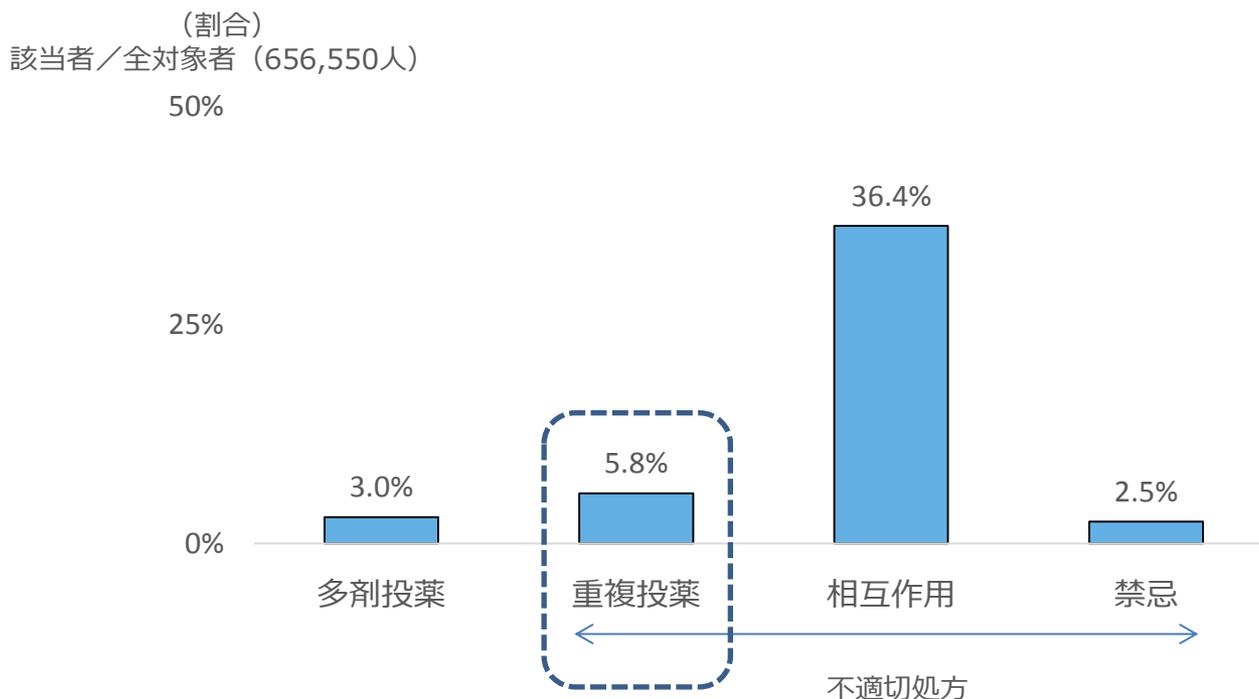
項目	定義	補足
定期服薬	<ul style="list-style-type: none">処方日数が14日以上の内服薬剤を服薬していることただし、同月の同一医療機関からの同一医薬品の処方薬を除く	<ul style="list-style-type: none">短期処方の影響を除き、慢性期で通院している対象者を想定月に2回、同一病院での定期的な処方を考慮
多剤投薬	<ul style="list-style-type: none">定期服薬者のうち、7種類以上の薬剤を服薬していること	
不適切処方	<ul style="list-style-type: none">重複投薬・相互作用・禁忌の何れか1つでも該当していること	
重複投薬	<ul style="list-style-type: none">同月に、同一の薬効分類の医薬品が複数医療機関から処方されていること	<ul style="list-style-type: none">同一の薬効分類は個別医薬品YJコードの頭4桁が同じ場合とする
相互作用 禁忌	<ul style="list-style-type: none">同月に、医薬品の添付文書にある相互作用・禁忌の組合せが、同一または複数医療機関から処方されていること	<ul style="list-style-type: none">医薬品の添付文書（公的説明書）に記載されている全ての注意事項を含む



データ分析の結果

1. 全対象者の多剤投薬・不適切処方の実態

- 多剤投薬者は全対象者のうち3.0%（19,696人）であった。
- 重複投薬処方を受けている対象者は**5.8%（38,079人）**であった。



※ 相互作用・禁忌は医薬品の添付文書上に記載されている全ての注意事項を含んでいることに留意

2018年度_報告内容（抜粋）

- 1 重複服薬者へのお薬手帳ホルダーの作成・送付
- 2 お薬手帳ホルダー使用感アンケート調査

2. 重複投薬者へのお薬手帳ホルダーの作成・送付

お薬手帳ホルダー送付の概要

対象者

平成30年7月～9月に請求があった医科、DPC、調剤レセプトを使用し、重複投薬に該当する6,482名の対象者を抽出した。そのうち、無作為に5,000名を抽出し送付対象者とした。

その後、引き抜き対象者（DV、資格喪失者等）761名を除き、最終的に**4,239名にお薬手帳ホルダーを送付した。**
 （送付日；平成31年3月29日）

送付にあたっては、送付状とアンケートの両面資料1枚、福岡県が作成した事業概要を説明したリーフレット1枚、協会けんぽ仕様の返信用封筒を同封した。



重複の定義

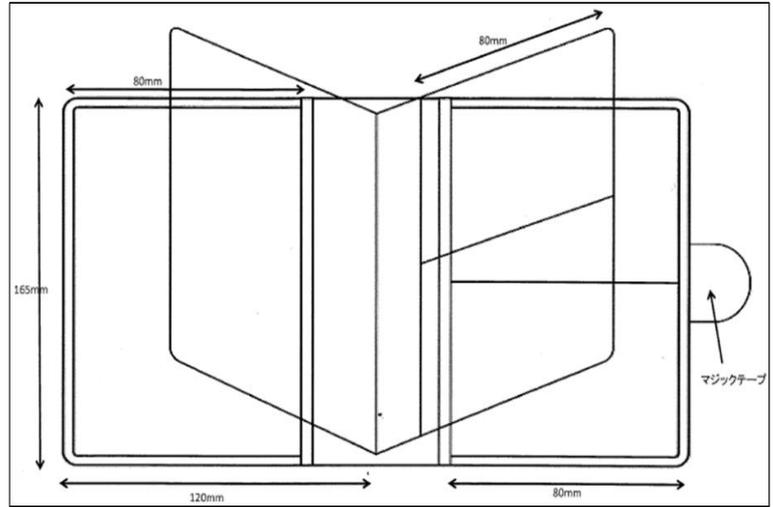
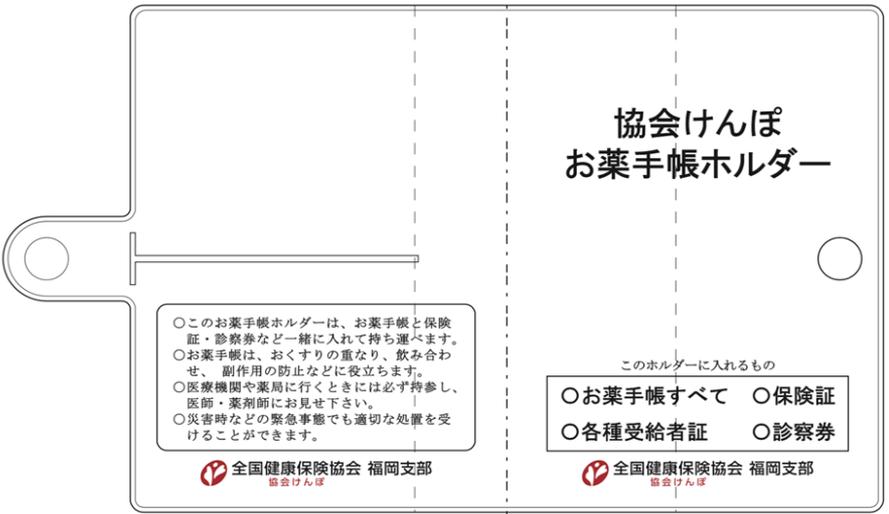
処方日数が30日以上で、同月に、同一の医薬品が複数医療機関から処方されていることとした。

効果検証用データセット

効果検証用のデータセットとして、対象者5,000名の中から100名、その他1,482名の中から無作為に100名を抽出した。ホルダー送付後の重複状況の評価は2020年3月診療分のレセプトで確認する予定（無作為化比較試験）。

2.重複投薬者へのお薬手帳ホルダーの作成・送付

3-2 作成したお薬手帳ホルダーのデザイン



※お薬手帳ホルダー再委託先作成
マービテック株式会社
〒669-3153
兵庫県丹波市山南町前川350
TEL 0795-76-0463

※見積額 約270円/冊

2. 重複投薬者へのお薬手帳ホルダーの作成・送付

3-3 使用感アンケート集計結果

○3月29日、18歳以上の重複服薬者4,239人にホルダーを送付。同封しているアンケート用紙に回答を求め、1,240人（29.3%；5月15日時点）から回答があった。

質問内容

質問1；普段お薬手帳を持参して医療機関へ受診していますか？（持参する、持参しない）

質問2；今回送られてきたお薬手帳ホルダーをご利用しますか？（利用する、利用しない）

質問3；お薬手帳ホルダーを利用しない理由（複数選択）

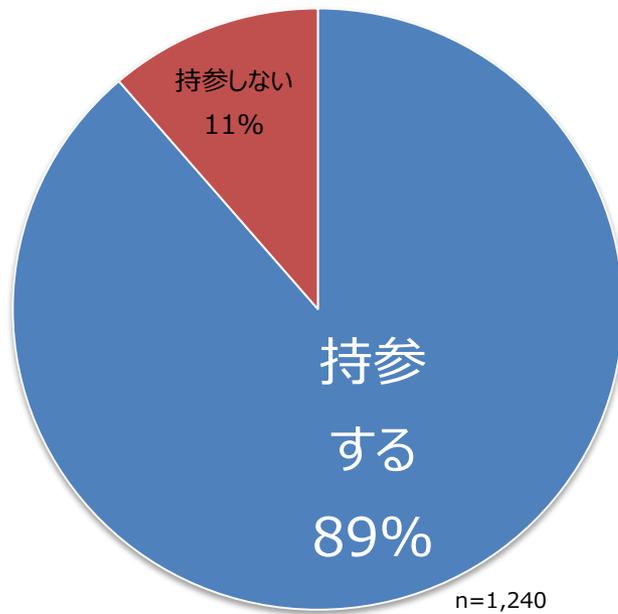
- すでに他のホルダーを使っている デザインに不満がある ポケットが足りない
必要性がわからない サイズが小さすぎる サイズが大きすぎる その他

質問4；回答者の属性（性別、年代）

- 女性 男性
10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

3.お薬手帳ホルダー使用感アンケート

質問 1 _ 普段お薬手帳を持参して医療機関へ受診していますか？



お薬手帳を「持参しない」と答えた140人のうち

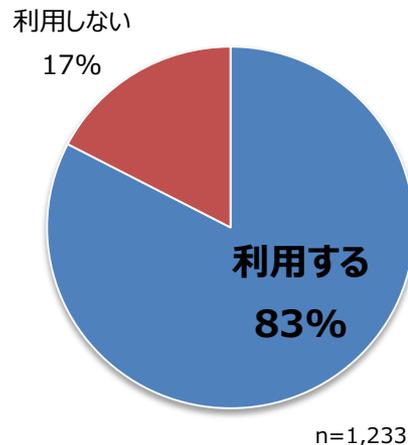
- 男性 77人 (55.0%)
- 女性 58人 (41.4%)
- 未記入5人 (3.6%)

男性の方がややお薬手帳を持参しない傾向にある。

重複服薬者の89%はお薬手帳を持参して医療機関を受診している。

質問2_今回送られてきたお薬手帳ホルダーをご利用しますか？

質問3_お薬手帳ホルダーを利用しない理由は？

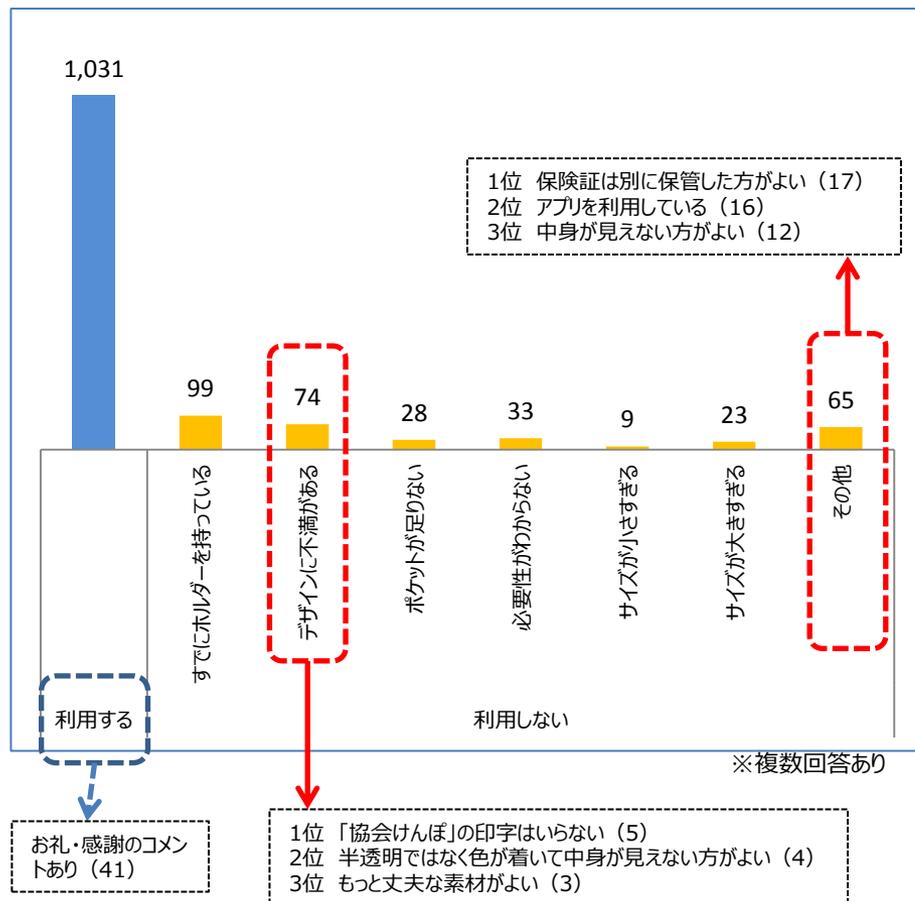


利用する	利用しない
1,020	213

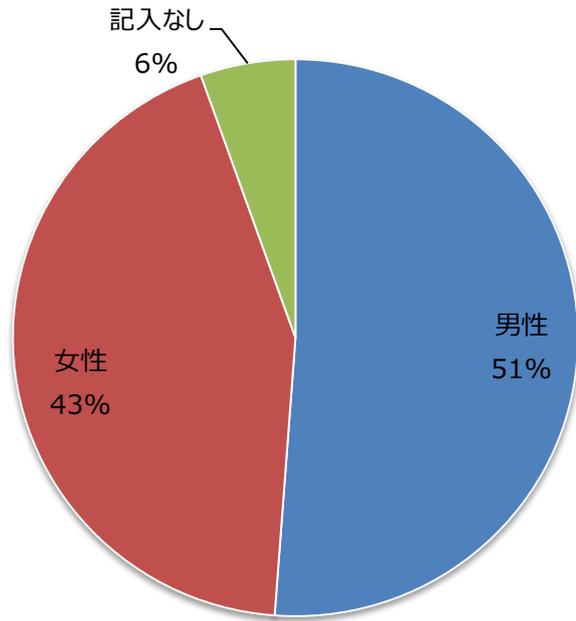
重複服薬者の83%は送付したお薬手帳ホルダーを利用すると回答した。

送付したお薬手帳ホルダーを利用しない理由で最も多かったのは、

- すでにホルダーを持っている（99人）
 - デザインに不満がある（74人）
 - 必要性がわからない（33人）
- であった。



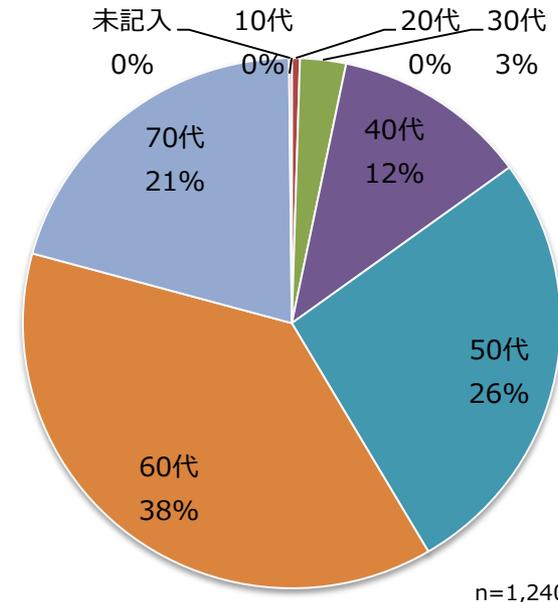
質問4_回答者さまについて教えてください（性別、年代）。



n=1,240

男性	女性	記入なし
635	537	68

男性と女性の比率はほぼ同じ

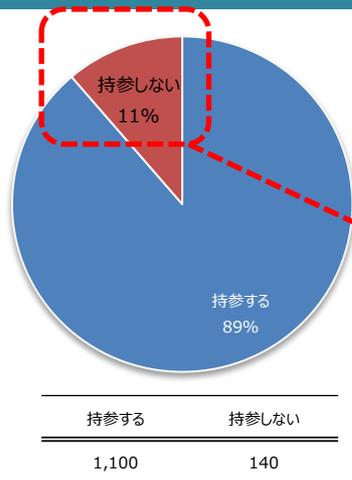


n=1,240

年代	人数
10代	0
20代	6
30代	35
40代	146
50代	328
60代	469
70代	254
未記入	2

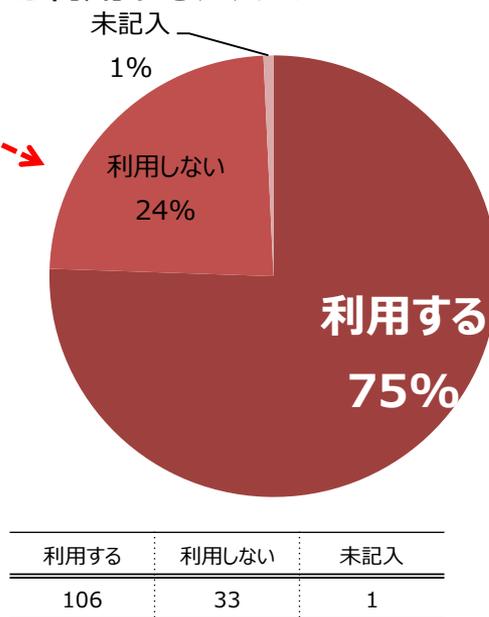
重複服薬者は
50才代～70才代
が多く85%を占め
る。

クロス集計_ 普段お薬手帳を持参していない者が今回送付したホルダーを利用するかどうか？



重複服薬者の11%はお薬手帳を持参しないと回答していた。

お薬手帳を「持参しない」と答えた140人のうち、今回送付したホルダーを利用する人は？



n=140

日頃お薬手帳を利用しない人の**75%**がホルダーを利用すると回答した。

【送付該当者の選定について】

・本事業では福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会で実施された「お薬手帳の活用促進事業」と同様のスキームで実施した。この事業の重複服薬者は、同一月に複数の医療機関から、30日以上同一名の薬剤投与を受けている者とされ、約10,000人の後期高齢者に送付された。支部加入者においても単月で18歳以上、5,000人程度の該当者がいたことから、今後も医薬品の適正使用の観点から事業を継続するとともに、今後は該当年齢の拡大や、重複服薬者だけではなく、禁忌・相互作用該当者など、該当者選定の枠の拡大も検討していく。さらにレセプト情報から、お薬手帳持参の有無が推測される者を抽出し、ホルダーを送付することも併せて検討していく。

【お薬手帳ホルダーの調達について】

- ・ アンケートで今回送付したホルダーを利用するかどうか尋ねたところ、83%が「利用する」と回答したことから、複数冊のお薬手帳を持っていると推測される該当者が、医療機関や調剤薬局を利用した際、医師・薬剤師の協力のもと、重複薬剤の改善（減薬）が期待できる。

※平成30年度_福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会が実施した本事業では、後期高齢と協会けんぽ福岡支部のみ実施したが、次年度は国保連合会も加わり、60市町村のうち45市町村が順次実施することとなった。これにより国保加入の重複投薬者の約4割（4,400人／11,200人）に送付することとなり、福岡県全体（協会けんぽ、後期高齢、国保）でお薬手帳の活用を促進することとなる。

- ・ アンケートで17%の者が、「お薬手帳を利用しない」と回答し、その理由として「すでにホルダーを持っているから（99人）」、「デザインに不満がある（74人）」が多かった。デザインの詳細を見ると、今回送付した半透明ではなく「中身が見えないもの」を希望する者がいたことから、今後はホルダー調達の際費用等を検討していく。

【関係機関との連携（情報提供等）】

・アンケートで、「普段お薬手帳を持参して医療機関を受診するか」尋ねたところ、89%が「持参する」と回答した。平成29年度福岡県県政モニターアンケートでは、「いつも持っていく・持っていく」と回答したのは73%であったことから、県全体よりも、支部の重複服薬者のお薬手帳持参状況は良好といえる。しかし一方で、持参しているにもかかわらず、薬が重複している状況であり、**医療の現場で十分にお薬手帳が活用されていない可能性も考えられる**。よって今回の調査結果については、福岡県薬剤師会、福岡県医師会、福岡県薬務課及び福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会等の関係機関へ情報提供し、協力を求めていく必要がある。

→福岡県内保険調剤薬局への情報提供実施（約2,700件）

「お薬手帳活用促進への協力（お願い）について」文書送付



令和元年 月 日

〒812-8870
福岡市博多区上戸崎10-1 9F
全国健康保険協会福岡支部
〒812-281-7521 (FAX) / 協定一室

協会けんぽより、ご質問をお答えしました。

お薬手帳活用促進へのご協力（お願い）について。

平素より、当協会の健康保険事業に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当支部では、服薬者の立場から医薬品適正使用を目的に、「お薬手帳の活用及び一冊化」を推進しており、平成30年度福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会と協業で、複数の医療機関を委託し、同じ薬剤の内服薬が重複している加入者に対し、「お薬手帳ホルダー」を送付いたしました（約5,000人）。

同時にお薬手帳の活用状況等も調査したところ、重複服薬者の9割は、「普段お薬手帳を持参して受診している」と答えていたことから、**お薬手帳を持参している可能性**があり、この送付したホルダーの活用（一冊化）が期待されることと見られます。

今回ホルダーを送付した方には、薬効が重複しているとは存じず、お薬手帳等をホルダーにまとめた、薬に関する相談等はかかりつけ医、およびかかりつけ薬局に相談するようにしております。

貴薬局におかれましては、大変ご多忙と察しますが、当ホルダーをお持ちの患者様が依頼された際には、お薬手帳のご確認とお薬手帳の一冊化へのご協力をお願い申し上げます。

なお、送付したホルダーの形態等につきましては、裏面をご確認いただきますようお願いいたします。

■以下に該当した方にホルダーを送付しました。(H31年3月現在)

①処方日数が14日以上で、同月に、同一の薬効分類[※]の医薬品が複数医療機関から処方されている18歳以上の方。
※同一の薬効分類はJコードの第4桁が同じ場合とする。

②平成31年1月末時点で全国健康保険協会福岡支部に加入している方。

■ホルダー送付者にアンケート調査を実施しました。

○重複服薬者の9割は、「普段お薬手帳を持参して受診している」と答えていたことから、**お薬手帳を持参している可能性**があります。
(回答数（※）：1,240人（89.9%））

普段お薬手帳を持参して医療機関へ受診していますか？

普段お薬手帳を持参して医療機関へ受診している。 89.9% (1,124)

普段お薬手帳を持参して医療機関へ受診していない。 10.1% (126)

○お薬手帳ホルダー（裏面）